

2022 年度シラバス

中学校 1 年



駒沢学園女子中学・高等学校

国語(現代文分野)(2022 年度)

単位数	5 単位の 3 単位
担当	中野早苗
教科書	国語 1(光村図書)
対象生徒	中学 1 年

1. 授業の目標

「言葉」を楽しみ、文学作品に親しむ気持ちを育てる。

到達目標

- (ア) 本を年間 30 冊以上読み、語彙力・表現力を身に付ける。
- (イ) 漢検 5 級以上を取得する。
- (ウ) 予習をして授業に臨み、学習の習慣を定着させる。

2. 副教材・参考書

- ・国語ワーク (光村教育図書)
- ・新国語便覧 (秀学社)
- ・セレクト漢字検定 5 級～2 級

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- (ア) 予習・復習を宿題という形で随時出すので、生徒たちは必ず宿題を終えた上で授業に参加する。
- (イ) 授業の内容は毎時間明確に提示し、終了時に確認する。
- (ウ) 学習活動・課題は積極的に取り組めるよう工夫する。
- (エ) 提出物は完成した形で、期限を守って提出する。

4. 宿題・課題・再試について

- (ア) 宿題…原則、毎時間出す。
内容は授業で学習した範囲の復習と次の授業の予習を中心とする。
- (イ) 課題…1 単元終了ごとに単元別試験を実施する。レポート作成などを行う場合もある。
- (ウ) C'Range テストを導入し、漢検 5 級以上の取得を目指して学習とテストを繰り返す。

5. 評価の基準について

- ・単元試験・単元まとめ試験の得点 50%、学力テスト 30%、パフォーマンス評価 20%により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題(単元試験)	応用問題(学力試験)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

C'Range 実施については、以下の通りとする。

- ① 1 週間に 1 度、授業時間内で「セレクト漢字検定 5 級～2 級」内の読み・漢字検定問題演習を Microsoft Forms 上のテストにて実施。
- ② 漢字の書き問題は、新出漢字も含めて毎回の単元別試験に盛り込む。
- ③ 1 週間に 1 度、試験範囲の漢字練習を「セレクト漢字検定 5 級～2 級」に直接取り組み、提出させる。
- ④ 100 点満点、合格点を 70 点以上とし、不合格の場合は適宜課題や補習を課す。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	期末	<p>ガイダンス 詩『朝のリレー』 詩『野原はうたう』</p> <p>物語『シンシュン』 情報整理のレッスン 比較・分類 漢字の組み立てと部首・漢字に親しもう 1</p> <p>説明『ダイコンは大きな根？』 説明『ちょっと立ち止まって』 意見と根拠 漢字に親しもう 2</p> <p>情報社会を生きる 詩・解説『詩の世界』</p> <p>説明『比喩で広がる言葉の世界』 指示する語句と接続する語句</p>
二学期	期末	<p>物語『大人になれなかった弟たちに……』 方言と共通語</p> <p>小説『星の花が降るころに』 漢字の音訓</p> <p>記録『「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ』 原因と結果 漢字に親しもう 3</p> <p>意見『「不便」の価値を見つめ直す』 漢字に親しもう 4</p> <p>詩『大阿蘇』</p>
三学期	学年末	<p>小説『少年の日の思い出』 漢字に親しもう 5</p> <p>随筆『随筆二編』 さまざまな表現技法 漢字の成り立ち</p> <p>漢字に親しもう 6 詩『さくらの はなびら』</p>

1. 授業の目標

古典への興味関心を育てる。
自分の考えや感想を整理して、文章にする。
表現活動を通じて、伝え合う力を養う。

到達目標

- (ア) 古文・漢文を読み慣れる。
- (イ) 百人一首を覚える。
- (ウ) 文法的な知識を得る。

2. 副教材・参考書

- ・国語ワーク(光村教育図書) ・新国語便覧(秀学社) ・文法の学習(浜島書店)
- ・小倉百人一首(京都書房)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- (ア) 古文・漢文のリズムを体得できるように音読をする。
- (イ) 予習・復習を宿題という形で随時出すので、生徒たちは必ず宿題を終えた上で授業に参加する。
- (ウ) 授業の内容は毎時間明確に提示し、終了時に確認する。
- (エ) 学習活動・課題は積極的に取り組めるよう工夫する。
- (オ) 提出物は完成した形で、期限を守って提出する。

4. 宿題・課題・再試について

- (ア) 宿題…原則、毎時間出す。
内容は授業で学習した範囲の復習と次の授業の予習を中心とする。
- (イ) 課題…1単元終了ごとに単元別試験を実施する。暗唱テストなどを行う場合もある。
- (ウ) 4週間に1度、新中学問題集を1課題ずつ自宅学習し提出する。

5. 評価の基準について

現代文分野と合算し評価する。

6. その他

書写について

4週間に1時間程度の書写の時間を設ける。 担当教諭：酒井 篤史

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	期末	百人一首 1～40 文法（言葉の単位） 文法（文節の働き） 文法（文の組み立て） 文法（単語の種類：自立語と付属語・活用） いろは歌 年中行事・月の異名
二学期	期末	百人一首 41～80 文法（単語の種類：品詞） 文法（体言） 文法（用言：動詞） 文法（用言：形容詞） 蓬萊の玉の枝 月の満ち欠け
三学期	学年末	百人一首 81～100 文法（用言：形容動詞） 文法（副詞・連体詞） 今に生きる言葉 故事成語

科目名(2022年度)

中学1年 国語(講読・表現分野)

1. 授業の目標

「言葉」を楽しみ、文学作品に親しむ気持ちを育てる。

教科書の「話すこと」「聞くこと」「書くこと」の分野を学習し、基礎を身に付ける。

到達目標

- (ア) 本を年間30冊以上読む。
- (イ) 読んだ本について感想や意見を書くことができる。
- (ウ) 自分の考えをスピーチすることができる
- (エ) 根拠を明確にして意見をまとめることができる

2. 副教材・参考書

・新国語便覧(秀学社) ・プリント

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- (ア) 学習活動・課題は積極的に取り組めるよう工夫する。
- (イ) 提出物は完成した形で、期限を守って提出する。

4. 宿題・課題・再試について

- (ア) 宿題…1か月単位で出す。
- (イ) 課題…1単元終了ごとに、レポート作成を実施する。

5. 評価の基準について

課題の評価を中心として評価をつける。その他の基準としては宿題の提出状況とする。

上記の課題は主にパフォーマンス評価の中に盛り込むこととする。

6. その他

指定図書

社会（歴史）（2022年度）

単位数	2単位
担当	根本
教科書	中学社会歴史(教育出版)
対象生徒	中学1年

1. 授業の目標

日本の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

2. 副教材・参考書

適宜、参考プリントを配布する。

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・事前に教科書に目を通し、全体の把握を出来るようにしておくこと。
- ・小單元ごとに配布する宿題プリントで復習をすること。

4. 宿題・課題・再試について

- ・小單元ごとに一問一答形式の宿題プリントを毎回の宿題とする。提出状況をパフォーマンス評価の対象とする。
- ・定期試験の結果が50点未満の場合は再試を受験しなければならない。合格点は50点以上とする。

5. 評価の基準について

- ・単元テストの得点(50%)、学力試験(30%)、発表・ノート(20%)により評価をする。
- ・評価は歴史と地理を合わせたものとする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	単元テスト 基礎問題	外部試験 応用問題	課題・発表・提出物 パフォーマンス
A	基本的な問題を概ね解くことができる(得点率 80%~100%)	資料の読み取りや記述問題に対する解を、的確に表現できる(得点率 80%~100%)	授業やグループワーク、課題等に積極的に取り組み、自分自身の考えを伝えることができる
B	基本的な問題を解くことができる(得点率 80%~30%)	資料の読み取りや記述問題に取り組むことができる(得点率 80%~30%)	授業やグループワーク、課題等に協力し、活動ができる
C	基本的な問題を理解する努力を要する(得点率 0%~30%)	資料の読み取りや記述問題に向き合う姿勢が見られる(得点率 0%~30%)	授業やグループワーク、課題等に参加し、活動ができる
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	1	・人類の出現と文明のおこり
	2	・日本の成り立ちと倭の王権
	3	・大帝国の出現と律令国家の形成
二学期	4	・貴族社会の発展
	5	・武家政治の始まり
	6	・ユーラシアの動きと武家政治の変化
三学期	7	・結びつく民衆と下剋上の社会
	8	・結びつく世界との出会い

社会(地理) (2022 年度)

単位数	2 単位
担当	栗山
教科書	・ 社会科 中学生の地理(帝国書院) ・ 中学校社会科地図(帝国書院)
対象生徒	中学 1 年

1. 授業の目標

- ・ 地球上の位置の表し方や、球面上の位置関係をとらえる力を身に付ける。
- ・ 世界の地位区分や国々の名前と位置などをもとに世界の地域構成を理解する。
- ・ 世界の気候と文化・産業などとの結びつきを理解する。
- ・ 各分野の基本的な事柄を正確に把握し、記せるようにする。
- ・ 各地域の特徴を押さえ、説明できるようにする。

2. 副教材・参考書

- ・ アドバンス 中学地理資料 (帝国書院)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・ 中学 1 年生の地理では、主に世界の地理について学習します。現在の世界の様子を理解し、考えるためには地理の知識は必要不可欠です。自分と世界とのつながりを考えながら、一緒に学習していきましょう。
- ・ 授業中に勉強したことを、その日のうちに復習していくことが大切です。用語は間違いがないように、きちんと書き取る練習をしていきましょう。
- ・ 地理では、データの読み取り(グラフ・表)を行います。授業中に読み取りの練習を適宜行います。読み取ったことを文章でまとめる力もつけていきましょう。

4. 宿題・課題・再試について

- ・ 長期休暇や授業の内容によって、課題や調べ学習の宿題が出される。適宜、小テストを実施する。
- ・ 単元テストの結果が 50 点未満の場合は再試を受験しなければならない。合格点は 50 点以上とする。再試に代わる課題を課す場合もある。

5. 評価の基準について

- ・ 単元テストの平均点(50%)、外部試験(30%)、パフォーマンス評価(20%)により評価をする。
- ・ 評価は歴史と地理を合わせたものとする。
- ・ 以下の表のように観点別評価をつける。

	単元テスト 基礎問題	外部試験 応用問題	課題・発表・提出物 パフォーマンス
A	基本的な問題を概ね解くことができる(得点率 80%~100%)	資料の読み取りや記述問題に対する解を、的確に表現できる(得点率 80%~100%)	授業やグループワーク、課題等に積極的に取り組み、自分自身の考えを伝えることができる
B	基本的な問題を解くことができる(得点率 80%~30%)	資料の読み取りや記述問題に取り組むことができる(得点率 80%~30%)	授業やグループワーク、課題等に協力し、活動ができる
C	基本的な問題を理解する努力を要する(得点率 0%~30%)	資料の読み取りや記述問題に向き合う姿勢が見られる(得点率 0%~30%)	授業やグループワーク、課題等に参加し、活動ができる
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・ 授業計画は予定であり、変更することがある。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	期末	<ul style="list-style-type: none"> ○世界と日本の地域構成 ・私たちの住む地球を眺めて ・いろいろな国の国名と位置 ・緯度と経度 ・世界の中での日本の位置 ・時差でとらえる日本の位置 ・都道府県と県庁所在地 ○世界のさまざまな地域 ・世界のさまざまな生活と環境 ・暑い地域の暮らし ・乾燥した地域の暮らし ・温暖な地域の暮らし ・寒い地域の暮らし ・高地の暮らし
二学期	期末	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地の衣食住とその変化 ・人々の生活と宗教の関わり ○世界の諸地域 ・アジア州 ・ヨーロッパ州 ・アフリカ州
三学期	学年末	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の諸地域 ・北アメリカ州 ・南アメリカ州 ・オセアニア州

数学(2022年度)

単位数	4単位
担当	五十嵐
教科書	中学数学1(数研出版)
対象生徒	中学1年

1. 授業の目標

- (1) 数を正の数と負の数拡張し、数の概念についての理解を深める。また、文字を用いることの意義及び方程式の意味を理解するとともに、数量などの関係や法則を一般的にかつ簡潔に表現し処理できるようにする。
- (2) 平面図形や空間図形についての操作や実験などを通して、図形に対する直感的な見方や考え方を深めるとともに、論理的に考察する基礎を培う。
- (3) 変化や対応についての見方や考え方を深め、関数関係を理解し、それを表現したり用いたりする能力を伸ばす。

2. 副教材・参考書

中学数学完全準拠スタンダード問題集1(数研出版)
 数学のベーシックマスター1年(新学社)

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

予習のポイント：教科書の内容を読み、その単元の関係ある小学校の内容をしっかりと復習し理解しておく。
 復習のポイント：その日の授業で解いた問題を、もう一度解き、答え合わせをする。この勉強を毎日積み重ねることにより、確実な力を身につける。また、1つの単元が終わるごとに、問題集等でもう1度自分の理解・記憶を確かめることも大事である。
 基本的な学力が身についたら問題集の応用問題を数多く解き、数学的な応用力・思考力を身につくように努力する。

4. 宿題・課題・再試・評価について

M' Range Test は毎週金曜日に課題を提出し、金曜日にテスト。70点以下の者は月曜日に再試をし、理解できていないときは補習を行う。
 宿題は、プリント、問題集など適宜出題する。
 定期試験 50点以下再試 50%の評価
 学力試験 30%の評価
 PH評価 Mレンジテスト 10%の評価 提出物 10%の評価

5. 評価の基準について

・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	80%~100%	80%~100%	80%~100%
B	30%~80%	30%~80%	30%~80%
C	0%~30%	0%~30%	0%~30%
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

・授業計画は予定であり、授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	期末	1章 正の数と負の数 ①正の数と負の数②加法と減法③乗法と除法④いろいろな計算⑤素因数分解 2章 文字と式 ①文字と式②文字式の計算③乗法と除法④いろいろな計算⑤素因数分解
二学期	期末	3章 1次方程式 ①1次方程式 ②1次方程式の利用 4章 比例と反比例 ①比例 ②反比例 ③比例、反比例の利用 5章 平面図形 ①平面図形 ②作図 ③円とおうぎ形 6章 空間図形 ①空間図形 ②立体の表面積と体積
三学期	学年末	7章 資料の整理とその活用 ①資料の整理とその活用 ②累積度数 ③ことからの起こりやすさ 1年間の復習 2年生の内容

理科 (2022 年度)

単位数	3 単位
担当	谷口
教科書	未来へひろがるサイエンス(啓林館)
対象生徒	中学1年生

1. 授業の目標

科学的現象についての実験・観察を行い、自然に対する関心を高め、基礎知識を身につける。

2. 副教材・参考書

新ワーク 理科1年(好学出版)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

授業後にその日学習した内容について、教科書・ノートを見直し復習をする。

副教材のテキストを解きなおし、分からないところは必ず質問をする。

4. 宿題・課題・再試について

宿題・課題：定期的の問題集を宿題として出します。また、調べ学習やレポートなどを宿題として出します。

再試：定期試験の点数が基準に満たない場合、再試験または課題を課します。

5. 評価の基準について

・定期試験(50%)、学力試験(30%)、パフォーマンス(20%)により評価をする。

・以下の表のように観点別評価をつける。

	知識・技能 基本問題(定期試験)	思考・判断・表現 応用問題(学力試験)	主体的に学習に取り組む態度
A	基本的な問題を概ね解くことができる。 (得点率 80%~100%)	高度な思考力を要する問題を解くことができる。 (得点率 80%~100%)	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題を解くことができる。 (得点率 30%~80%)	知識を応用して問題を解くことができる。 (得点率 30%~80%)	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	理解する努力を要する。 (得点率 0%~30%)	継続的な学習を要する。 (得点率 0%~30%)	主体的に参加する態度を要する。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

・授業計画は予定であり、授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容
一学期	単元①	[生命] いろいろな生物とその共通点 1章 植物の特徴と分類
	単元②	2章 動物の特徴と分類
	単元③	[物質]身の回りの物質 1章 いろいろな物質とその性質 2章 いろいろな気体とその性質
二学期	単元④	3章 水溶液の性質 4章 物質のすがたとその変化
	単元⑤	[エネルギー] 光・音・力による現象 1章 光による現象
	単元⑥	2章 音による現象 3章 力による現象
三学期	単元⑦	[地球] 活きている地球 1章 身近な大地 2章 ゆれる大地
	単元⑧	3章 火をふく大地 4章 語る大地

音楽(2022年度)

単位数	2単位
担当	加瀬智子
教科書	中学生の音楽1 (教育芸術社)
対象生徒	中学1年

1. 授業の目標

音楽活動を通して、表現の能力を高めるとともに、音楽を愛する心を育む。
音楽の構造に関心を持ち、主体的に表現を工夫して取り組む。
鑑賞を通して、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

2. 副教材・参考書

中学生の器楽(教育芸術社)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

合唱、合奏はクラスで一つのものを作り上げることを主とするので、授業では指示や説明をしっかりと聞き、集中するよう心がける。(授業準備なども含む)

実技(歌唱、リコーダー)の上達に向けて、積極的に授業に参加することが望ましい。

プリント類などの提出物は期限内に提出する。

授業内筆記テスト前には確認プリントを復習してから受験する。

歌唱や器楽の練習の参考になる音源や動画を使い、授業の振り返りを行う。

4. 宿題・課題・再試について

授業中に終わらなかった課題は宿題とする。

5. 評価の基準について

学期毎に授業内で筆記テスト(小テスト)と実技テスト(歌唱、リコーダー)を行い、実技テストを重視する。

実技試験の評価基準は、指導の中であらかじめ生徒に伝える。

以下の表のように観点別評価をつける。

	筆記テスト、 実技(歌唱、リコーダー)	実技(歌唱、リコーダー) 鑑賞	授業に対する取り組み方 課題、提出物
A	100%~80%	100%~80%	100%~80%
B	80%~30%	80%~30%	80%~30%
C	30%~0%	30%~0%	30%~0%
	知識、技能	思考、判断、表現	主体的に取り組む態度

6. その他

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	期末	歌唱 校歌、We'll find the way~はるかな道へ~、その先へ、主人は冷たい土の中に 鑑賞 春 第1楽章 楽典 音符の種類と長さ、音部記号、リズムゲーム 授業内実技試験と筆記試験
二学期	期末	器楽(アルトリコーダー) 喜びの歌、さんぼ道、かつこう 歌唱 浜辺の歌、赤とんぼ、仏教聖歌(道元禅師賛歌、成道会の歌、四弘誓願文) 合唱 マイバラード 鑑賞 魔王、ジョーズのテーマ 授業内実技試験と筆記試験
三学期	学年末	器楽(アルトリコーダー) そっとやさしく、カノン1、カノン2 合唱 音楽発表会に向けて 鑑賞 「越天楽」、「六段の調」 楽典 音名、拍子 授業内実技試験と筆記試験

授業計画は予定であり、内容が変更となる場合がある。

単位数	2単位
担当	石塚雅子
教科書	美術1(光村図書)
対象生徒	中学1年

1. 授業の目標

美術の活動を通じて表現の能力を高めるとともに、美術を愛好する心を育てる。美術に関心を持ち、主体的に表現を工夫して取り組む。美術のよさや美しさを味わえるようにする。

2. 副教材・参考書

- ①「自然から学ぶ」1.2.3 佐藤忠良 他 著（現代美術社）
 - ②「美術・その精神と表現」佐藤忠良 他 著（現代美術社）
 - ③「少年の美術」佐藤忠良 他 著（現代美術社）
- 他、画集、美術書。歴史・宗教・哲学・文学書。DVD

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

常に制作への意欲を持ち続けられるように、無用な緊張は解きほぐし、それと同時に依存させすぎず自律を促しながら、各人の良さを最大限に引き出すようにアドバイスしていく。

4. 宿題・課題について

- ・提出日までに完成しなかった作品は宿題とする。提出期限は概ね2週間前後とする。
- ・長期休暇に美術鑑賞のレポートと実技課題を課す。

5. 評価の基準について

	実技	鑑賞	授業に対する取り組み方、課題、提出物
A	80%～100%	80%～100%	80%～100%
B	30%～80%	30%～80%	30%～80%
C	0%～30%	0%～30%	0%～30%
	知識、技能	思考、判断、表現	主体的に取り組む態度

6. その他

- ・実技の課題と繋げながら鑑賞の時間を設ける。図書館の蔵書、写真、映像で名作に触れる。
- ・よい展覧会を積極的に紹介する。

※新型コロナウイルス感染拡大防止の自宅学習に合った課題として内容を適宜検討しながら、よりよい授業を進める工夫をする。

学期	単元	授業内容
一学期	絵画 1～3	1 絵画・見て描く楽しみ素描と着彩 静物・壺を描く P10～13. 48. 49 2 色の整理・3 原色で描く P61. 62. 76～78 3 さまざまな技法で描く色の発見
	工作 4	水彩画 P62～ 63 4 額縁作り P68
二学期	彫塑 5	5 火焰型土器 粘土でつくる照明器具 P52. 53. 70. 71
	鑑賞 6 版画 7	6 仏教と日本美術 風神雷神 P30～36 作品テーマを学ぶグループ活動 7 紙版画・風神雷神 P30～36. 64
三学期	デザイン 8	8 絵文字がしゃべりだす レタリング明朝ゴシック P44. 45. 66. 67
	デザイン 9	9 平面構成・模様、飾りの小宇宙 P40～43

単位数	5 単位
担当	須藤、リカ
教科書	Here We Go (光村出版)
対象生徒	中学 1 年

1. 授業の目標

- (1) 教科書の表現を利用して、自分の言葉で身の回りのことを表現できる英語力を身に着ける。
- (2) 自分に必要な課題を設定して、自ら学ぶ姿勢を養成する。
- (3) 教科書の内容を何度も繰り返し、聞く・書く・話す・読むことによって、中学英語の定着を図る。

2. 副教材・参考書

教育開発出版 Key ワーク英語 1 年
 正進社 New Listening Plus 1
 NHK ラジオ 中学生の基礎英語レベル 1

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

予習のポイント：各 Unit の内容を音声で聞いて、音声から内容を理解する。

復習のポイント：その日にならった Unit の内容を何度も聞いたり、音読する。暗唱できるぐらい音読することが英語力の土台を築くために重要である。
 また、英語は日頃から自分で楽しく自己学習できる学習方法を模索することが大切なので、English Marathon という自己学習記録表を活用して、日々楽しみながら英語学習方法を継続できるように工夫をする。

4. 宿題・課題・再試・評価について

- ・ E' Range Test は隔週 1 回程度実施。70 点以下の者は再試をする。
- ・ 宿題は、音読・ワークブック・ライティング等を適宜課題として出す。
- ・ 単元テストは結果の 50% 未満は再試あり。

5. 評価の基準について

- ・ 単元テスト (50% の評価)、学力試験 (30% の評価)、パフォーマンス評価 (20%) により評価する。
 パフォーマンス評価は英会話の授業での発表が 10% の評価、提出物が 10% の評価となる。
- ・ 以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題 (定期試験)	応用問題 (定期試験・発表)	パフォーマンス (提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する課題・問題に対応できる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して課題・問題に取り組むことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	授業を応用した課題・テストにも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。

6. その他

- ・ English Marathon (学習記録表) を課す。自分にとって必要な英語課題を探して、毎日継続すること。

授業計画		
学期	単元テスト	授業内容 (教材)
一学期	4月 単元テスト1	Round 1&2 Unit1~Unit8 までリスニングと文字と音声の一致 教科書本文のおおまかなストーリー理解が目標。繰り返し教科書本文の内容を聞き、それぞれのUnitのストーリーの概要や登場人物の特徴などを捉えることができる。
	5月 単元テスト2	Round3&4 Unit1 音読と教科書の内容定着 様々な活動を通して繰り返し音読をして、Unit1&2 本文の新出単語や本文の定着を図ることが目標。ここで、文法やライティング活動も取り入れる。
	6月 単元テスト3 単元テスト4	Round3&4 Unit2&3 音読と教科書の内容定着 様々な活動を通して繰り返し音読をして、Unit1&2 本文の新出単語や本文の定着を図ることが目標。ここで、文法やライティング活動も取り入れる。
	7月 まとめの単元 テスト	単元テスト1~4の内容をまとめるテスト。
二学期	9月 単元テスト5	Round3&4 Unit4 音読と教科書の内容定着 様々な活動を通して繰り返し音読をして、Unit3の本文の新出単語や本文の定着を図ることが目標。ここで、文法やライティング活動も取り入れる。
	10月 単元テスト6 単元テスト7	Round3&4 Unit5&6 音読と教科書の内容の定着 様々な活動を通して繰り返し音読をして、Unit4の本文の新出単語や本文の定着を図ることが目標。ここで、文法やライティング活動も取り入れる。
	11月 単元テスト8	Round3&4 Unit7 音読と教科書の内容定着 様々な活動を通して繰り返し音読をして、Unit5の本文の新出単語や本文の定着を図ることが目標。ここで、文法やライティング活動も取り入れる。
	12月 まとめの単元 テスト	単元テスト4~7の内容をまとめるテスト。
三学期	1月 単元テスト9	Round3&4 Unit8 音読と教科書の内容定着 様々な活動を通して繰り返し音読をして、Unit5の本文の新出単語や本文の定着を図ることが目標。ここで、文法やライティング活動も取り入れる。
	2月 単元テスト10	Round5 Unit1~8のリテリング Round4 までに何度も触れてきた教科書本文の内容を自分の言葉で説明することが目標。自分で話した内容のライティング活動も行う。
	2月 まとめの単元 テスト	単元テスト7,8の内容をまとめるテスト

技術・家庭(2022年度)

単位数	2単位
担当	八木
教科書	新 技術・家庭(教育図書)
対象生徒	中学1年

1. 授業の目標

〈家庭分野〉

- ・衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に役立つ必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに家庭の機能について理解を深め、これからの生活を考え、生活をよりよくしようとする能力と態度を養う。
- ・私学としての特色(仏教教育)に基づいた食育「大切な命をいただく」ということについて、また、自然と人との調和などについて深く理解する。

2. 副教材・参考書

- ・エプロン製作キット
- ・家庭総合カタログ 修繕の基礎練習キット

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

【食生活分野】

- ・健康によい食生活について考え、安全で衛生的な調理のための技術や1日分の献立の作成について学習する。

【衣生活分野】

- ・自立した衣服生活を送るために必要な着用・入手・手入れについて学習し、基本的な縫製技術を習得する。

4. 宿題・課題・再試について

〈 課題 〉

- 1学期：目標設定、基礎縫い、被服製作レポート、エプロン
- 2学期：食に関する問題についてのレポート、献立作成
- 3学期：衣服のTPOについてのレポート、基礎縫い

5. 評価の基準について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	よく理解できている	特に素晴らしい	非常に積極的な態度がうかがえる
B	概ね理解できている	概ねできている	積極的な態度がうかがえる
C	理解する努力を要する	努力を要する	主体的に参加する態度を要する

6. その他

進捗状況により、パフォーマンス評価基準など変更することがある。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期		<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の学習目標 各分野の学習目標を立てる （家族・家庭と子どもの成長、食生活と自立、衣生活・住生活と自立、身近な消費生活と環境） ・被服製作 [実習] 被服実習における事前確認 ミシンや道具の扱いについて 被服の立体構成を学ぶ エプロン製作
二学期		<ul style="list-style-type: none"> ・食生活 栄養素の種類とはたらきについて ・食に関する問題 食品に含まれる栄養素について ・献立作成 1日分の献立の作成
三学期		<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活 衣服の働き 目的に合わせた着こなし 衣服計画について ・基礎縫い [実習] 基礎縫い まつり縫い、本返し縫い、半返し縫い、ボタン付け、スナップ付けの習得

宗 教(2022 年度)

単位数	1 単位
担当	永井 俊道
教科書	駒沢学園の仏教（駒澤学園） 道徳 1（光村図書）
対象生徒	中学 1 年

1. 授業の目標

駒沢学園の歴史と建学の精神を理解し、仏教主義学校としての理念を学ぶと共に、道徳に替わる教科として宗教に関する一般的な知識と教養を養い、興味関心を高めることにより、現代社会の諸問題に関する考察力を身につける。

〔中期目標〕建学の精神・日々のお唱えの意味と目的を学ぶことにより、駒沢学園がめざす生徒像を理解すると共に、仏教を基盤とした道徳的な考え方を身につけ、自分で考え行動できるようになる。

〔長期目標〕仏教を基盤とした道徳的な理念を理解し、より良く生きるためにどのように行動すべきか考えられるようになる。あわせて、「いのち」について考え、どのように生きていくことが大切か、それぞれが自分のこととして考えられるようになる。

2. 副教材・参考書

駒沢学園の仏教（駒澤学園）
道徳 1（光村図書）

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

朝礼や終礼・会食でお唱えする「三帰礼文」・「四弘誓願文」・「五観の偈」などを、丁寧にお唱えしましょう。また、式典への積極的な参加や挨拶や清掃など日々の活動を大切にすることが、授業の理解にもつながります。試験に向けては、テキストをきちんと読めるようになっておいてください。

4. 宿題・課題・再試について

宗教科の授業で取り上げる社会の諸問題に関する探究授業では、グループワーク・発表を含みます。視聴覚教材を見ての、感想や意見などをロイロノートに提出します。

予習・復習課題は、ロイロノートに提出します。

坐禅実習も成績に含まれます。真剣に取り組みましょう。

5. 評価の基準について

・単元テストの得点(70%)、提出物と坐禅実習(30%)により評価をする。

評価方法	割合	評価基準
単元テスト	70	単元テストの点数
坐禅実習	5	坐禅実習に出席し、集中して座ることができたか
提出物	20	授業ごとのまとめや課題、予習復習内容など
ノート	5	ノートのまとめ方など

・以下の表のように観点別評価をつける。

	定期試験	定期試験・提出物	提出物・坐禅実習
A	基本的な問題は概ね解くことができる。 70%～100%	思考的問題を解くことができる。論理的に自分の考えを表現できる。	坐禅実習に積極的に参加し、課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。 40%～70%	知識を応用して問題を解くことができる。論理的に自分の考えを表現しようと努力している。	坐禅実習に積極的に参加し、多少遅れることもあるが、課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。 0%～40%	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。自分の考えを表現しようとしている。	坐禅実習に参加し、課題に対する意欲がある。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業内容は、実際の授業時間数などにより、順番が前後したりすることもあります。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	期末	1、宗教の授業に関するガイダンスと導入 ・アンパンマンのマーチや新聞記事を用いて、宗教の授業への興味を持たせる。 2、「花まつり」について【p 52～p 56】 ・学校行事としての「花まつり」目的と意義について考える。また、日本の行事としての「花まつり」について学習する。 3、建学の精神と道元禅師と永平寺について ・建学の精神（正念・行学一如）と道元禅師と永平寺の関りについて学習する。 4、「三帰礼文」・「四弘誓願文」について ・意味について学習し、自分たちの生活にどのように生かしていくか考える。 5、坐禅実習
二学期	期末	1、「五観の偈」について ・意味について学ぶとともに、食事について、特に「命をいただく」ことについて考える。 2、「追善記念日」について【p 57】 ・学校行事としての「追善記念日」の目的や意義について考える。 ・「死」とは何か考える。 ・道元禅師の生涯（1） 誕生から出家までを学習する。 3、「撰心会」と「成道会」について【p 58～p 61】 ・学校行事としての「撰心会」と「成道会」の目的や意義について考える。 4、写経 5、坐禅実習
三学期	学年末	1、「誕生記念日」について【p 62～p 63】 ・学校行事としての「誕生記念日」について考える。 ・道元の生涯（2） 道元禅師の日宋から永平寺建立までを学ぶ。 2、「涅槃会」について【p 64～p 65】 ・学校行事としての「涅槃会」について考える。 3、「山上忌」について【p 66～p 67】 ・学校行事としての「山上忌」について考える。 4、坐禅実習

保健体育(2022年度)

単位数	3単位
担当	樋口
教科書	
対象生徒	中学1年

1. 授業の目標

運動の楽しさや喜びを味わい、基本的な技能を身に付ける。
 運動を通して体力の向上を図る。
 競走や協同の経験を通して公正さ・協力性・自分の役割を知ること等を育てる。
 生涯を通しての健康の大切さを学ぶ。

2. 副教材・参考書

ステップアップ中学体育(大修館)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

ケガのないように準備運動をしっかりと行う。
 説明をしっかりと聞き、安全を第1に考える。

4. 宿題・課題・再試について

各運動における競技施設やルールについて調べ学習をおこなう。

5. 評価の基準について

- ・実技試験1(40%)、実技試験2(50%)、課題提出(10%)により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	実技試験1	実技試験2	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	80%~100%	80%~100%	80%~100%
B	30%~80%	30%~80%	30%~80%
C	0%~30%	0%~30%	0%~30%
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画(ダンス)

学期	試験	授業内容(教材)
一学期	実技	駒女体操(順番を覚える) からだ作り(柔軟 ストレッチ 筋トレ)
二学期	実技	マット運動(前転 後転 開脚前転 開脚後転 倒立前転 側方回転) 跳び箱(開脚飛び(縦・横) 横跳び)
三学期	実技	創作ダンス(グループ分け・選曲・創作 発表会)

授業計画(スポーツ)

学期	試験	授業内容(教材)
一学期	実技	スポーツテスト(50M走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び) 体育祭種目練習 水泳(クロール・平泳ぎ)
二学期	実技	バスケットボール(ドリブル・パス・シュート チェストパス ドリブルシュート レイアップシュート ゲーム) 持久走(グラウンド3周・5周)
三学期	学実技	バレーボール(パス サーブ ゲーム) 縄跳び(縄跳び検定)

技術・家庭(2022年度)

単位数	2単位
担当	八木
教科書	新 技術・家庭(教育図書)
対象生徒	中学1年

1. 授業の目標

〈家庭分野〉

- ・衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に役立つ必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに家庭の機能について理解を深め、これからの生活を考え、生活をよりよくしようとする能力と態度を養う。
- ・私学としての特色(仏教教育)に基づいた食育「大切な命をいただく」ということについて、また、自然と人との調和などについて深く理解する。

2. 副教材・参考書

- ・エプロン製作キット
- ・家庭総合カタログ 修繕の基礎練習キット

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

【食生活分野】

- ・健康によい食生活について考え、安全で衛生的な調理のための技術や1日分の献立の作成について学習する。

【衣生活分野】

- ・自立した衣服生活を送るために必要な着用・入手・手入れについて学習し、基本的な縫製技術を習得する。

4. 宿題・課題・再試について

〈 課題 〉

- 1学期：目標設定、基礎縫い、被服製作レポート、エプロン
 2学期：食に関する問題についてのレポート、献立作成
 3学期：衣服のTPOについてのレポート、基礎縫い

5. 評価の基準について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	よく理解できている	特に素晴らしい	非常に積極的な態度がうかがえる
B	概ね理解できている	概ねできている	積極的な態度がうかがえる
C	理解する努力を要する	努力を要する	主体的に参加する態度を要する

6. その他

進捗状況により、パフォーマンス評価基準など変更することがある。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期		<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の学習目標 各分野の学習目標を立てる （家族・家庭と子どもの成長、食生活と自立、衣生活・住生活と自立、身近な消費生活と環境） ・被服製作 [実習] 被服実習における事前確認 ミシンや道具の扱いについて 被服の立体構成を学ぶ エプロン製作
二学期		<ul style="list-style-type: none"> ・食生活 栄養素の種類とはたらきについて ・食に関する問題 食品に含まれる栄養素について ・献立作成 1日分の献立の作成
三学期		<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活 衣服の働き 目的に合わせた着こなし 衣服計画について ・基礎縫い [実習] 基礎縫い まつり縫い、本返し縫い、半返し縫い、ボタン付け、スナップ付けの習得